

平成22年度 自己評価書

学校名 和歌山市立伏虎中学校

校長名 下店文男

作成日

平成23年1月20日

学校教育目標

活気に満ちた伏虎中学校 ― 美しく、仲良く、静かで、活力ある学校

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力	
本年度の重点目標	・積極的な情報発信を図る。 ・保護者や地域の人から信頼される学校づくりをめざす。 ・学校開放月間を利用し多くの保護者に学校の諸活動をし、参観していただく。	・校外学習、学習発表会などの学校行事の充実をはかる。 ・進路指導を計画的にすすめる。 ・不登校生の改善に取り組む。	・学習規律を確立し、すべての生徒が授業に集中できる環境をつくる。 ・特別支援教育を充実させる。	
取組の具体的方策	・ホームページ、育友会総会、進路説明会等の機会に平素の活動についての情報提供 ・毎朝のあいさつ運動(生徒や職員、通勤者に) ・子どもに関係する出来事には迅速に対応、連絡。家庭との連携を密にし、協力関係を作る。	・学校行事においてなるべく生徒の主体的な活動をすすめる。 ・2年時に行う職場体験を中心において3年間を見すえた進路指導をすすめる。 ・学校とカウンセラーや関係機関との連携を密にしながら不登校生の改善に取り組む。	・読書タイムを、読書への興味付けだけではなく、授業に臨む落ち着いた雰囲気をつくる。 ・より深い生徒理解のために、特別支援教育の観点から個々の生徒への対応や必要な支援等について職員の共通理解を深める。	
取組の成果と課題	機会をとらえて学校の様子を報告連絡をしている。全体的には落ち着いた生活ぶりであるというありがたい声もいただいている。一方、学校での活動の様子がわかりにくいというアンケートの回答もあり、これからの課題である。	・行事における生徒の活動はますますいい動きができたと考えている。 ・進路指導については計画的にすすめることができた。 ・不登校生徒で改善傾向を示すものが数名あったが、新たに登校できなくなっている生徒もでている。	・全体的には、どの学級も落ち着いて授業に集中している。遅刻や服装面での指導には課題が残る。 ・特別支援に対する職員の研修が深まり、子どもひとり一人に対する見方、指導法に幅ができた。	
次年改善に方向けの	・ホームページの更新を増やす。 ・学校開放月間のよびかけに工夫が必要。	・関係機関のおかげで数名の生徒は活動の場を持っている。今後とも連携を密にし、学校への再登校のステップになるように考えている。学校カウンセラーの活用を一層勧めたい。	遅刻や服装面(特に女子のスカート丈)についての指導にはより一層家庭との協力関係を築いていく必要がある。	

その他学校運営についての課題や計画